

第1学年 国語科 単元名 ことばって、おもしろいな「ものの 名まえ」

1. 目標

- 物の名前や「おみせやさんごっこ」に興味をもち、進んで話したり聞いたりしようとしている。 【関心・意欲・態度】
- お店でのやり取りに沿って、尋ねたり応答したりしている。 【話すこと・聞くこと】
- 上位語と下位語の関係を理解し、お店の看板には上位語に当たる言葉を、品物には下位語に当たる言葉を書いている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

2. 指導計画（5時間扱い）

見通す
取り組む
振り返る

- ①時 単元のねらいをつかみ、学習の見通しをもつ。
上位語と下位語の違いに気を付けて、言葉の分類分けをする。
←学び合いの例
- ②時 身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分ける。
- ③時 グループに分かれ、開きたいお店について話し合う。
店で売る品物の、絵と名前をカードに書き、店の看板をつくる。
- ④時 教科書を読み、「お店の人」と「お客さん」の話し方について考え練習する。
- ⑤時 「おみせやさんごっこ」をする。学習を振り返る。

<活用した思考ツール>

【袋チャート】

3. 第①時について

- 目標 上位語と下位語の違いと使い分けについて、正しく理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

見通す
取り組む
振り返る

- 活動① お店で買い物をした経験について話す。
- 活動② 本時の学習についてのビデオを見る。
- 活動③ 本時のめあてを確認する。
今日のめあて「おじさんが『わからないよ』といったのはなぜだろう。」
- 活動④ なぜおじさんが「わからないよ」と言ったのかを自分で考え、ワークシートに書き込んだ後、ペアで理由を出し合い、全体で意見を発表する。
- 活動⑤ ビデオの続きを見て「わからないよ」と言った理由を知る。
- 活動⑥ 2人組で言葉の分類分けをする。その後自分で言葉の分類分けをし、発表する。

さ	か	な	や	さ	ん
い	さ	た	あ		
か	ま	い	じ		
		ま			

く	だ	も	の	や	さ	ん
バ	み	り	い			
ナ	か	ん	ち			
ナ	ん	ご	ご			

ぶ	ん	ぼ	う	ぐ	や	さ	ん
ペ	ノ	け	え				
ン	ー	し	ん				
	ト	ご	び				
		む	つ				

- 活動⑦ 本時のまとめ、振り返りを行う。

まとめてつけた名まえでは、どの魚がほしいかわからない。だから、まとめてつけた名まえと、一つ一つの名まえをわけてつかう。

4. 学び合いの例について

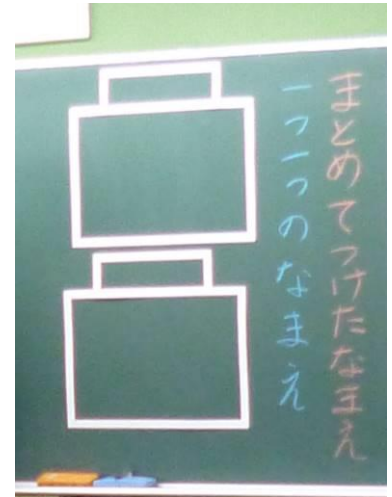
【活動⑥】：袋チャートの活用】

(手だて)

①自分の考えをわかりやすくまとめるための手立て

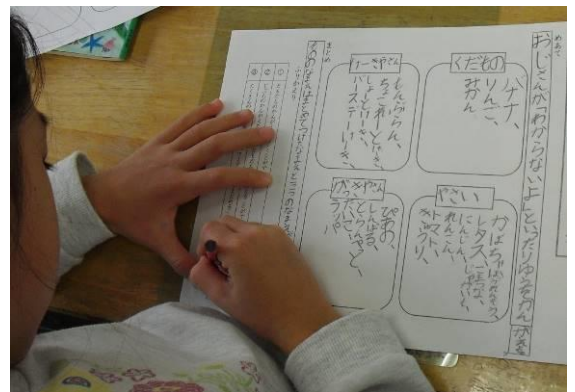
活動⑥において袋チャートを活用することで、物の名前を上位語と下位語に分類しやすくした。まとめてつけた名前と一つ一つにつけた名前を分類して書かせることで、自分がどちらの名前について考え、書いているのか意識させるようにした。

また、まず黒板で同じようにやって見せることで、何をしたらよいのか、一人一人に見通しを持たせて活動することができるようにした。



②友達の考えと比較するための手立て

活動⑥では、ワークシートをお互いに見せ合いながら、どのような品物を上位語・下位語に分類したのか説明させるようにした。その際、一方的な活動にならないように、相手にわかりやすく伝える言い方についても考えさせた後、交流させた。



(留意点)

- ・1年生という発達段階を考えると、複雑な思考ツールは十分に使いこなせない。よって、シンプルな形式でわかりやすくすることが大切である。

【活動⑥】：学習形態の工夫（ペア学習）】

(手だて)

①児童の発達段階に応じた学習形態の工夫

活動⑥の交流活動では、ペア学習を取り入れた。2人組で行うことにより、自分の考えを伝える相手を明確にして、交流することができるようにした。また、人前で話すことに苦手意識がある児童でも、隣の友達に、自分の考えを聞いてもらったり、分かってもらったりすることで、交流する楽しさを味わわせることができるようにした。

また、情報量を2人分にするすることで、友達の考えと自分の考えを比較しやすくした。

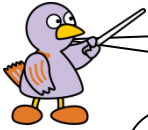


(留意点)

- ・「まとめた名前は」「一つ一つの名前は」など、キーワードを提示しながら、順序良く話すことができるようにする。

単元名 ことばって、おもしろいな「ものの 名まえ」

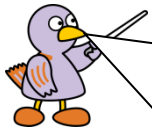
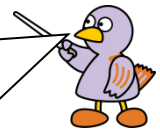
取組のワンポイントアドバイス



こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

1年生の発達段階に応じた思考ツールや交流活動を行うことで、めあてを十分に達成することができました。低学年からの積み重ねが、高学年へとつながっていくため、できる形態で行っていくことが大切です。しかし、思考ツールを使うことや、交流することの有用性を味わわせながら行っていくことが重要です。

自分の考えを可視化するために、思考ツールの活用はよい手段です。しかし、児童が思考ツールの使い方が理解できず、使うまでに時間がかかってしまったのでは、めあてを達成できません。そこで、発達段階に合わせてシンプルな形にしていくことも大切です。



友達と交流することで、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気づき、自分の考えを広げたり深めたりすることができます。しかし、1年生にとって多くの情報を処理していくことは難しいこともあります。そこで、今回はめあてを達成できる最低人数で交流の場を設定しました。しかし、2人の能力差などを考慮する必要性もありました。

めあてに「なぜ」の言葉を使うことで、児童に課題解決の意欲を持たせるようにしました。また、自分のお店での具体的な経験を基に考えさせることで、めあてを「自分のこと」として捉えることができるようにしました。生活に密着して活動させることで、今後普段の生活でもこの学習を生かすことができるようにしました。

